



就任のあいさつ

会長 加藤 俊男

掛川の里も桜が終り、新緑の美しいころとなりました。

このたび、地域力向上委員会の会長に推挙されました。私にこのような大役を務めることができるかどうか甚だ心もとない思いますが、お引き受けした以上は私なりに精いっぱい努力し、少しでも皆様のお役に立ちたいと考えております。

前会長のご尽力により昨年度、地域力向上委員会を立ち上げることができました。そして、ワークショップにより子育て支援、高齢者支援、コミュニティー、防災の4つの柱による活動方針が決まりました。これを推進させていくためには会員一人ひとり

のご理解とご協力をお願いしなければなりません。そのために、まず会員一人ひとりの意見を吸い上げるシステムを作り上げていきたいと思っております。

組織が大きくなるとどうしても一人ひとりの意見を活動の中に反映させるのが難しくなり、ついには会員から遊離した役員のための組織になってしまう危険があります。「みんなでつくろうすみよい掛川」を合言葉に、会員相互の対話を第一に考え、会員による会員のための地域力向上委員会をめざしていくつもりです。

今後ともご支援ご協力をお願いいたします。



退任のあいさつ

前会長 富田 明 朗

まちづくり協議会を地域力向上委員会に引き継ぐという組織改変の2年間でありますが、なんとか新しい組織をスタートさせることができました。

ご理解とご支援をいただいた地域のみなさん、地域が抱える課題解決に熱心に取り組んでいただいた各グループのみなさん、そして活動全般にわたっての企画・連絡調整、事務処理などを精力的に進めていただいた役員の方々に心より感謝申し上げます。

会長の任をおりまして、わたしたちがお互いのきずなを深め、活力ある地域づくりにまい進していけますよう一会員としてがんばります。2年間にわたり大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

総会が開かれました



平成 27 年 5 月 9 日（土）午後 2 時から掛川地域力向上委員会の総会が掛川小学校体育館で行われました。両町より会員 100 名の参加がありました。

アトラクションとして掛川小学校の児童と地元の太鼓クラブの方々の太鼓の演奏のあと開会のことは、会長富田明朗さんのあいさつに続いて就任されたばかりの伊藤保徳瀬戸市長からあいさつをいただきました。



伊藤市長あいさつ要旨

こんにちは。掛川地域力向上委員会の総会が盛大に行われることにお祝いを申し上げます。

私は市の南の方、幡山の出身です。北の方は何もやらないのではと一部に言われているようですが、そんなことはありません。公平にやらなければならないと思っています。この地域を忘れることがないよう、これからも足を運んでこられるようにしたい。そして少なくとも今よりは元気な瀬戸市にしたい。

この会が住民のため、子供たちのために有効な活動になることを祈念しています。

議事の概要

- ・ 富田明朗会長の退任、新会長加藤俊男さんの就任、新役員の承認
- ・ ワークショップ後に策定されたアクションプランに基づき、「子育て支援グループ」「高齢者支援グループ」「コミュニティーグループ」「防災グループ」により本格的に活動を開始すること
- ・ 会計を「補助事業会計」「自己資金会計」「筍まつり特別会計」の三本立てにすること など可決・承認



来賓の瀬戸市市議会議員戸田由久さんからは「前会長、ご苦労様でした。新会長よろしくお願いします。個人と地域、地域と市、市と個人、この関係が大事です。市が私たちに

何かしてくれるのではなく、私たちが地域をどうしたらよいかを考えなくてはいけない。」

続いて、品野連合自治会長河村貞夫さんが「掛川地域力向上委員会が新しい組織として発展することを期待しています。少子化、高齢化が来ています。若者に魅力ある地域にしていきたい。明日への推進力になってほしい。」とあいさつがありました。

かけがわっ子ひろば 始まる

昨年のワークショップで、中心的な課題としてとりあげられていた子育て支援について、ある程度の見通しが立ったため4月7日から掛川小学校児童対象の学童

保育的な施設として「かけがわっ子ひろば」が開設されました。両町の町民会館が借りられることになり、月・木は下半田川町、火・水・金は定光寺町で実施しています。

アクションプランをもとに、保護者と地域力向上委員会の子育て支援グループが市役所や既存の施設へ足を運んだり、学校や保護者との連絡調整をしたりして、精力的に検討・準備を進めてきた結果です。

子どもたちの世話は民間施設から派遣される職員1名と保護者で対応しています。当面は保護者が中心となって管理運営をします。

地域力向上委員会としてどのような支援ができるか今後詰めていくこととなります。



開設初日の様子
4月7日 定光寺町民会館にて

盛況だった筍まつり

4月29日、恒例の筍まつりが定光寺境内で開催されました。今年で9回目になります。前日、地域の多数の方のご協力によって、約1,100kgの筍を収穫しました。当日も好天に恵まれて、約220袋の筍を販売することができ、10万円余りの売り上げがありました。お寺さんから振舞われたワカ竹汁なども好評でした。皆様のご協力ありがとうございました。



ワカ竹汁のおもてなし



小さなお客さん

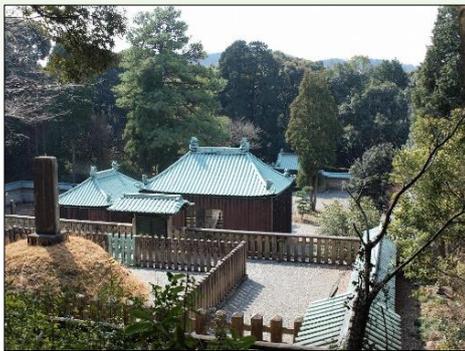
まちかどニュース

瀬戸市環境塾講座

定光寺の自然と歴史が残る山散歩

3月15日、瀬戸市環境塾講座が行われました。瀬戸市環境課が主催したもので、定光寺の徳川義直公廟所の見学、その付近の照葉樹原生林の観察、そして美しい里山の景観が保たれている半ノ木集落の歴史と自然に触れながらの山散歩でした。

参加者は28名、源敬公の廟所については定光寺町出身の松本博司さん（三沢町在住）、地域の自然については元掛川小学校教諭大谷敏和さん、半ノ木の歴史については元半ノ木在住者の定光寺町加藤俊男さんが講師を担当しました。



徳川義直公廟



美しい里山の景観が保たれている半ノ木集落

下半田川町 Town Watching

4月18日、せと・まるっと環境クラブの主催で、下半田川町タウンウォッチングが行われました。

東屋敷の^{はたかわ}秦川城址、蛇ヶ洞川のオオサンショウウオ人工巣穴、藤原期の仏像が安置されている観音堂、縁結び・安産の妻神社などを巡りました。

コースガイドと神社関係は富田幹夫さん、オオサンショウウオ関係は富田彪さん、水辺環境については専門家の瀬川貴之さん、文化財関係については市役所文化課佐野元さん、町民会館に保管されている高札については定光寺町出身の松本博司さん、そして地域の自然については環境クラブの上杉毅さんが現場での解説を担当しました。地元の人を含め、瀬戸市内外から50名以上の参加がありました。



秦川城址にて



蛇ヶ洞川オオサンショウウオ人工巣穴付近にて



そっくりな校章

掛川小学校シリーズは当初、5回の連載で完結する予定でしたが、1回増やしてこのNo.6をもってとりあえず締めくくることがとしました。

掛川小学校の校章はフタバアオイの葉が三枚あしらわれています。フタバアオイが校章に使われているのは、学校近くの応夢山には徳川義直の廟所があり、学校をとりまく地域がかつては徳川家より寄進された定光寺の寺領であったことなど、徳川家とのゆかりが深いことを意味しています。

校章をかたどった真鍮製の記章は男子は帽章、女子は胸章として使っていました。どこにも残っていないと思われていた当時の記章が最近になって下半田川町の民家で見つかりました。(写真)

ところで、中の文字は別として、周りのデザインがうりふたつの校章をもつ学校がほかにもあることが分かりました。愛知教育大学附属岡崎小学校(岡崎市)と関連の附属校です。

岡崎市は徳川家康の生誕地として知られ、徳川家とゆかりの深い地であるこ



掛川小学校校章



見つかった記章(原寸大)

とから、葵の紋に使われているフタバアオイがデザインされているのはうなずけます。しかし、葉のあしらい方が掛川小学校と申し合わせたように同じというのは非常に興味あるところです。

このことについて附属岡崎小学校に尋ねてみました。校章は愛知教育大学の前身のひとつである愛知県第二師範学校の付属小学校時代(大正期)に制定されたようですが掛川小学校との関係については残念ながら分かりませんでした。デザインはただ単に偶然の一致だったのででしょうか。

掛川小学校で校章のデザインが検討された当時の校長が師範学校卒であり、附属校の校章を参考にしたのかもしれない。



徳川家の家紋 葵紋



愛知教育大学附属岡崎小・中学校校章



同 附属養護中学校校章



徳川家の葵紋(あおいもん)はフタバアオイの葉っぱ3枚を図案化したものですが、自生するフタバアオイの葉は2枚ずつペアになって出ます。葵紋は京都賀茂神社の神紋(二葉葵・加茂葵)で、氏子であった賀茂氏との繋がりが深い三河武士の徳川家は葵紋を家紋としてきました。

フタバアオイはウマノスズクサ科の植物で、カンアオイの仲間です。カンアオイは常緑ですが、フタバアオイは冬場に地上部が枯れます。春に新芽を出し、お椀を伏せたような形の花を咲かせます。

フタバアオイ



葉の柄の下方に見えるピンク色のものが花



会員の声
9回目の春
下半田川町 古屋敷恵美



以前住んでいた守山区吉根（きっこ）からわずか30分の距離にもかかわらず自然豊かな、ちょっと昔ながらのこの場所に移り住みました。

地域の方やご近所さんや掛川小学校の皆さんに助けられ、私たち家族は楽しい毎日を送っています。隣の方が誰か分からないこの時代に子どもの事を自分の孫のように可愛がってもらったり、畑で採れた新鮮な野菜をいただいたりとはんとうに助かっています。

私がここに来て一番びっくりしたのは「あいさつ」です。恥ずかしい話、私は大人になるまでとても親しい人には、声を出してあいさつをして、顔見知りぐらいの人には、頭を下げる程度、知らない人には、あいさつをしませんでした。でもここに引っ越してきて皆さんがあいさつをしてくださり、話すきっかけができてそのおかげで地域に解け込む事ができたのではないかと思います。子どもたちもあいさつが習慣になりどこへ行ってもすれ違う人に自分

からあいさつをしています。私はとても良いことだと思いこれからも続けていきたいと思っています。

掛川小学校の行事は、私も子ども達も初めての経験をたくさんさせていただき、地域の方の協力なしではできない事を知りました。

学校・子ども・地域・保護者のつながりは大変強く、これがこの地域の強みだと思います。

掛川地域力向上委員会がたちあがり、この春から色々な新しい活動が始まりました。これからの掛川地区がもっともっと住みやすく元気がある地域になれるように私も少しですが、お役にたてるように頑張っていきたいと思っています。

私たちは下半田川町で9回目の春を迎えました。

これからもどうぞよろしくお願ひします。



編集後記



新年度がスタートしました。広報部員も半数が入れ替わり、次の6人で担当することになりました。楽しく読みやすい広報誌をめざしてがんばります。どうぞよろしくお願ひいたします。

「やまびこ」のカラー版は今年度3回を予定しています。

部長：富田彪 副部長：富田幹夫・柴田昌乃
部員：稲垣幸子・古屋敷恵美・高村洋子